

西条まつり写真コンテスト 作品募集

■題材 平成18年に催される嘉母神社、石岡神社、伊曾乃神社、飯積神社の各祭礼での「だんじり」「みこし」「太鼓台」を中心とした西条まつりをアピールするもの。

■サイズ カラープリント四ツ切(サービズ四ツ切、ダイレクトプリントも可)

※作品の数に制限はありません。ただし、組写真、デジタルカメラは不可。

■賞 推薦1点、特選3点、準特選5点、入選20点(賞金と副賞等があります)

■応募期限 11月10日(金)
(当日消印有効)

■応募方法 応募票(自作可)に必要事項を記入し、作品の裏面に張り付けて提出(郵送可)してください。応募票は応募先にあります。

■応募先
○市庁舎別館観光振興課(〒793-8601 明屋敷164)

○愛媛県カメラ商組合加盟店

■応募上の注意

○作品の返却を希望される方は、返信用切手を同封して

ください。ただし、受賞作品は返却できません。○必ず本人名義で応募してください。

○準特選以上は、1人1賞とします。

○受賞作品の著作権は主催者側に帰属します。

○受賞作品の原版(ポジフィルムなど)は、市へ提出していただきます。

○受賞作品は、来年の西条まつりポスターなどに使用する場合があります。

■問合せ
市庁舎別館観光振興課
観光振興係(内線2552)

自衛官募集

【予備自衛官補】

■応募資格・応募期間

○一般：18歳以上34歳未満

○技能：保有する技能にに応じて18歳以上53歳、55歳未満

■応募期間 10月13日(金)まで

【2等陸・海・空士】

■応募資格

18歳以上27歳未満

■応募期間 年間を通じて

【問合せ】

自衛隊新居浜出張所

TEL 0897-32-5396

違反屋外広告物除去の 協力団体を募集しています

張り紙などの違反屋外広告物を除去するには、団体登録が必要です。

違反屋外広告物の除去にご協力いただける団体は、ぜひ登録をしてください。

■対象

営利を目的とせず、3人以上で組織された団体。

■申込先

○市庁舎別館建設道路課
道路調査情報係
(内線2723)

○東予総合支所建設課
道路河川係 (内線222)

○丹原総合支所建設課
道路河川係 (内線222)

○小松総合支所建設課
道路河川係 (内線332)



▲8月11日、市内の高校生ボランティアグループ(C・A・P)の皆さんが、違反屋外広告物の一斉除去活動に参加してくれました。ご協力ありがとうございました。

パリの風 ~Le vent de Paris

水の話 桑名正子 (画家・パリ在住)

壬生川出身の画家、桑名正子さんからふるさとへのメッセージをいただきました。

子どものころから水には非常に興味がありました。私の生まれ育った家は壬生川の newly 商店街でしたが、奥深い家で台所と洗面所と庭に一つずつ全部で三つの水脈の打ち抜きがありました。それぞれに水の味がちがっているのが子ども心に不思議でもあり面白く感じられました。

家の庭にある打ち抜きからは24時間地下水が湧き出してきて流れるままになっていました。こんこんと流れる水を見ていると見飽きませんでしたし、水遊びをしたり庭の花に水をまいたりしたことが、溢れる水のように時折、脳裏に蘇って来ることがあります。

何年前かこの話を松山市の人にしましたが、げん顔をするだけで信じてくれませんでした。同じ愛媛県の中でも特に水が豊富なところに育った人間でなくてはこの話はピンとこないのだなとはじめてそのとき気がつきました。

その打ち抜きの一つは私が成人するころには枯れてしまい、ほかのも何10年かのうちに少しずつ水量が減って電気のポンプが必要になり、遂には半分を上水道に頼るようになりました。

地下水が井戸をくみ上げることなく湧き出るといふような恩

恵に甘えすぎると、ある日その恩恵に限りがあることを思い知らされるのだなとつくづく実感させられました。西条市は今も水が豊富なことで知られていますが、その水を守り続けて欲しいという思いが私の子ども時代の思い出に重なってくるのです。

フランスでも水不足が叫ばれて久しくなります。特に今年は7月の猛暑のため水不足で農作物が打撃を受けています。もともと日本ほど水に恵まれていませんでしたから、フランス人は水を大事に使ってきました。お風呂にしても水を使いすぎるからとシャワーしか使わない人がほとんどです。

飲み水も大事に守り育ててきて、ミネラルウォーターとして体に良い水の出る所を国が認定して厳しく管理しています。フランスの水道水は硬水で、お湯を沸かすと湯沸かし器の内側が粉が吹いたように真っ白になります。

日本の水はやわらかくお茶に向いていることはよく知られたことですが、この水質が茶道の発達に大きくかかわってきたことが、日本に帰って西条の水を飲むと改めて感じられるのです。

水の伝統を守って未来の世代に伝えてほしいものです。



▲桑名正子さん(セーヌ川にて)